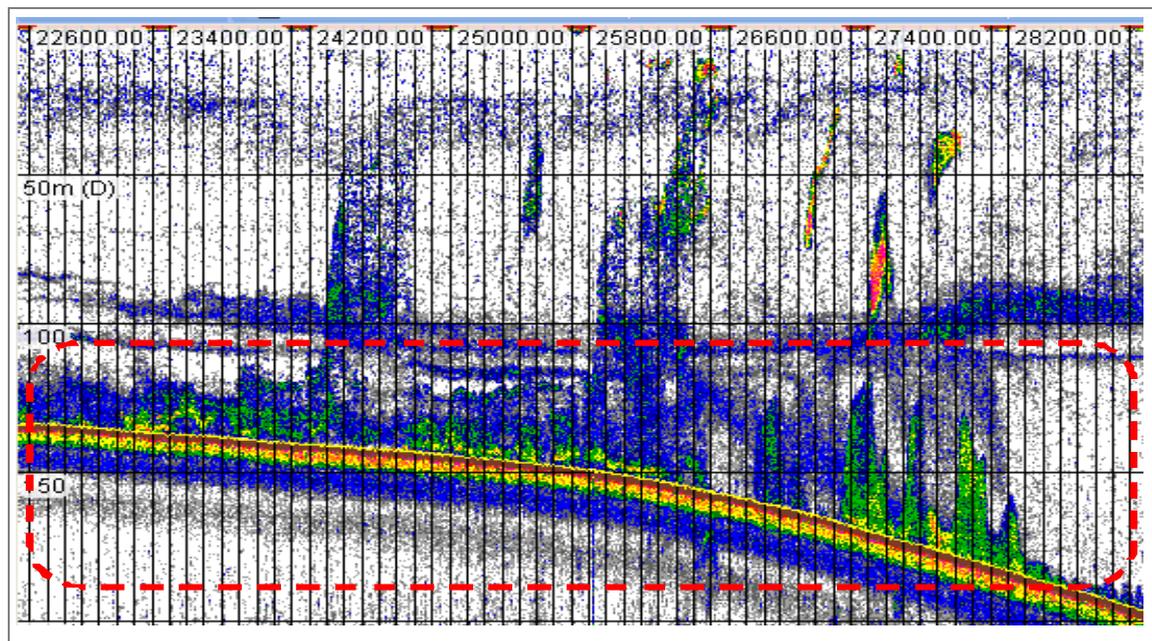


反応構成生物： スルメイカ (*Todarodes pacificus*)

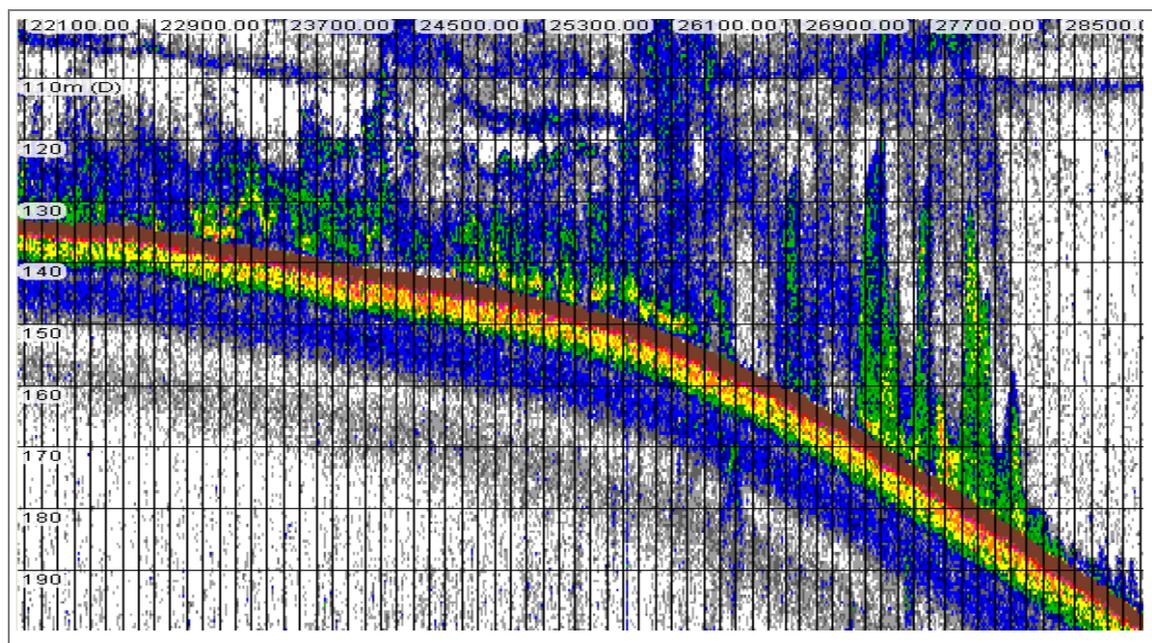
収録日時：1997年8月31日 (昼間 15:30 頃)

収録海域：太平洋, 東北沖

収録機種・周波数：KFC2000・38 kHz



Echogram-1 38 kHz



(Echogram-1 赤破線部分の拡大)

Echogram-2 38 kHz

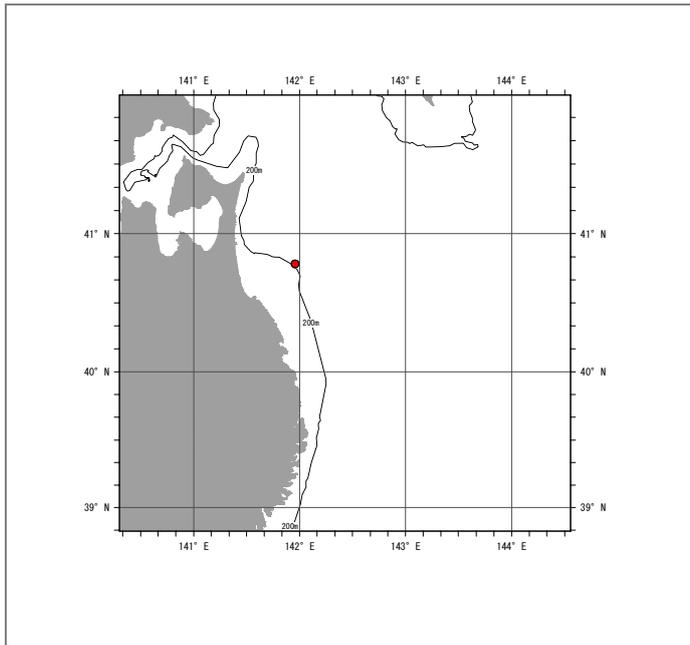
表示スケール： 縦 200 m／横 6400 m (Echogram-1) , 縦 100 (100~200) m／横 6900 m (Echogram-2)

グリッド間隔： 縦 50 m／横 100 m (Echogram-1) , 縦 10 m／横 100 m (Echogram-2)

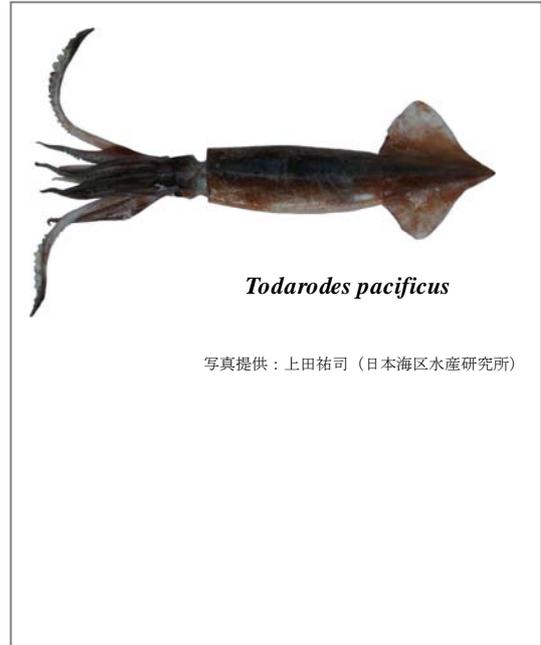
表示色・表示 S_v 範囲： EK500color ・ -80 ~ -30 dB

データ提供：中央水産研究所 資源動態研究室 (川端 淳), 若鷹丸

収録海域詳細↓



反応構成生物写真・イラスト↓



魚種確認の有無・対象生物判別の根拠

スルメイカのイカ釣り・沖合底曳網漁場で反応が確認されたこと。
海底付近の同様のエコーについては、別の日にオッタトロールや釣獲試験によるサンプリングやROV 観察を実施して魚種（スルメイカ）を確認している。

サンプリング詳細情報・備考

67 ページと同じ日時に収録されたエコーグラム。三陸北部海域ではスルメイカは陸棚縁辺付近に多く、昼間は海底付近に分布する。1997 年はスルメイカの資源状態が良く、エコーグラムは多くのスルメイカ漁船が操業している海域で捉えられた。

赤破線で囲った上部のパッチ状の反応は、同じく資源状態が良かったサバ類によるもので、スルメイカと同様に湧昇流がみられツノナシオキアミなどのプランクトンの多い陸棚縁辺に多く分布する。